

## ◎中学生の部

### その他の良い作品

#### 最後の演奏

東中学校 三年

木宮 実羽

セミの声がやっときこえてきた  
今年梅雨が長いらしい  
去年の今ごろはコンクールに向かって  
あつい日差しの中吹いていた  
でも  
今年はそう上手くいかない  
コンクールは無くなった  
一つ目標を失い  
今私に残されているのは  
小さな最後の演奏会  
大きな大きな産業文化ホールで吹く  
コンクールをやるはずだった場所  
羽生の文化ホールは

他に比べて造りが良いらしい  
そんな良いところ  
最後にのびのびと演奏できるなら  
それもいいかもしれない  
少しの不安と  
少しの後悔  
少しの怒り  
そして  
少しの希望  
全部を音に乗せて  
ホールに響かせるんだ  
さあ時間だ  
仲間を見て  
一つ深呼吸  
そうして私は  
太陽のような光の中に  
進んでいく  
この大好きなホールに  
私を全部  
届けるんだ

## 立ち止まって

南中学校 二年

小塚 梨杏

ほのかに香る風  
公園で立ち止まって  
大きく息を吸う  
見なれていた大きな木の前で  
深く深呼吸をした  
流れてくる風の香りは  
なにかなつかしい気がした  
少し大きな風の音  
サーサーと  
聞こえてくる風の音は  
心を落ちつかせてくれる  
ある日の帰り道  
大きな木の前で立ち止まる  
ミーンミーン  
ミーンミーン  
せみの音  
大きく深呼吸をする  
前とは違った風の香り  
大きな太陽に照らされて

大きな緑色の木は輝いている  
空は青く広がっている  
どこまでも  
どこまでも  
雲はわたがしのように  
白くふんわりしていた  
いつ立ち止まっても心が落ちつく  
ふんわりとした香り  
まるで風が背中を  
おしだしてくれているかのように

ここで生きていくということ

東中学校 二年

鈴木 琴子

関東の梅雨が明けて 羽生にも夏が来た  
モロヘイヤの畑にセミの声  
青々とした稲  
強く照りつける日差しと熱風  
自転車に乗る額を流れる汗  
新しい楽譜に向かう日々  
やがて台風の時期がすぎると  
一雨ごとに気温が下がり 秋へと移る  
黄金色に染まる稲穂  
音楽室の窓から  
頬を撫でる爽やかな秋風が吹き  
少しづつ夜が長くなる  
定期テストの結果とコントラバスの低音  
冬の朝 狂う調弦とかじかむ指先  
吐く息は白く  
乾っ風が吹きつける  
そして新しい年  
梅が咲きタンポポが咲き生物が動き出す  
私たちは 桜と共に誰かと別れ  
青葉と共に誰かと出会う

心地よい春風が吹き  
季節はまた進んでいく

昨日の向こうに今日があつて  
今日の向こうに明日がある

あたり前の日々が

これからも続いていく  
何かに出会うこと 別れること

その中で私は成長する

ここ羽生で生まれ  
ここで生きていくということは

あたり前だけれど かけがえのないこと  
私はそのことに感謝しながら

あたり前の日々を 積み重ねていく

## 変わらない温かさ

東中学校 三年

関根 ほのか

本  
当  
に  
嬉  
し  
い  
気  
持  
ち  
で  
い  
っ  
ぱ  
い  
だ  
私  
は  
こ  
の  
ま  
ち  
が  
大  
好  
き  
だ  
こ  
ん  
な  
に  
も  
温  
か  
い  
気  
持  
ち  
を  
感  
じ  
る  
こ  
と  
が  
で  
き  
る  
の  
だ  
か  
ら

澄み切った青空の下  
「おはよう」とあいさつを交わし  
「いつてらっしゃい」と声をかけてもらおう  
この光景はあたりまえのようで  
あたりまえではない  
実はとてもありがたいことなのだ  
私はその温かさを感じ  
今日も安心した気持ちで家へ向かう  
私の住むこのまちは  
実はとても素晴らしいまちである  
私はこのまちに住むことができ

澄み切った夕暮れの下  
「こんにちは」とあいさつを交わし  
「お帰りなさい」と声をかけてもらおう  
この光景もあたりまえのようで  
あたりまえではない  
実はとてもありがたいことなのだ  
私はその温かさを感じ  
今日も安心した気持ちで家へ向かう  
私の住むこのまちは  
実はとても素晴らしいまちである  
私はこのまちに住むことができ

夏の自然

南中学校 二年

萩原 優奈

夜に降っていた雨が  
稲に光る田んぼ道  
暑い暑いと  
強い陽が射す前に  
早く早くと  
風を浴びて走り出す

稲の雫が乾く頃  
盛り上がる蝉の声  
授業開始の音が鳴る

五時の知らせが流れる頃  
空の色が変わっていく  
真っ白い紙に  
どんな色で彩ろう

木々を揺らしていた風が  
稲を撫でる田んぼ道  
早く早くと  
風に押されて走り出す

でも少しだけ  
話したいから  
ゆつくり行こう

こんな豊かな風景を  
大人になっても見たい  
いくつになっても  
在ってほしい

ふるさとのさんぽ道

西中学校 一年

春山 良太

おじいちゃんとかのさんぽ道  
風のおい  
夏のおい  
おしろい花のおい  
なんだかいにおい  
犬も鼻をくんくんさせている  
どこからともなくただよってくる  
きんもくせいのおい  
なんだかほっとする  
オレンジの花は金もくせい  
白い花は銀もくせい  
おじいちゃんが教えてくれた  
川では魚が泳いでいる  
つがいのカモもいた  
友達かな？夫婦かな？  
とんぼも飛んでいる  
しおからとんぼやムギワラトンボ  
ムギワラトンボはしおからとんぼのメス  
なんだそう

おじいちゃんをよく知っている  
どこからか夕飯のおいがしてくる  
そろそろUターンして帰ろうか  
また明日もさんぽに行こうね  
ぼくはこのさんぽ道が大好きだ

## 心が安らぐ木

南中学校 二年

吉成 勇人

木々を眺めていると  
なぜ心が安らぐのだろう  
風で木の葉が揺れると  
なぜ心が安らぐのだろう  
ふと僕はそう思った

疲れている時  
気分が晴れない時  
木々を眺めていると  
さわやかな葉の色のように  
僕の心も澄んでいき  
気持ち楽になる

勉強をしている時  
趣味に没頭している時  
木の葉が風に揺れ  
さわさわと音を立てると  
僕を励ましているように思え  
気持ちが楽になる

僕はこの音が  
とても好きだ

木には不思議な力がある  
僕と同じように  
癒やされている人が  
緑あふれる僕のまち  
このまちを大切にしていきたい